

# 未来が見つかる学校に向けて再起動！

令和8年1月5日

## 2026年スタートと、令和7年度の3ヶ月の重要性

新年あけましておめでとうございます。皆様にとって、幸多き素晴らしい一年になることを祈ります。

2026年1月1日私は、富士宮の柚野で初日の出を見ました（右下写真）。静岡県は、お天気にも恵まれ、穏やかで良いスタートでした。今年は、冬季五輪、サッカーワールドカップ、WBC（野球）と世界的なスポーツのイベントの開催が予定され、関心を寄せる高校生も多いことでしょう。21世紀（2000年代）は、四半世紀（25年）を終え、中盤に向かいますが、生成 AI の登場でいよいよ新たな変革の時代の到来になるでしょう。1月1日の新聞は、その年を占いながら1面が構成されるので、（オールド？）マスメディアがどのような視点を提供するのか比較するのも面白く、個人的には、日本経済新聞が、高校生にも読んでもらいたい内容でした（アルファα世代の時代に求められるもの…全世界的に見ると、現高校生（Z 世代）の次の世代（15歳以下）は、世界で20億人に達する。この世代は AI ネーティブになるだろう。）。そんな未来を感じながら、「今」をもう一度考えて欲しいと思っています。さて…、日本は、4月から新しい「学年」になります。なぜ、「4月」なのでしょう。



現在、学校教育法で決められた学校は、学校教育法施行規則で、「4月1日から」となっています。これは、明治初頭、「学制」が始まった頃は、明確に示されていなかったのですが、明治19年に、新たな年の国の予算を使うために、入学時期を変更されたことによります。これは、大学（高等教育機関）でも同様で、明治21年に東京大学が、4月を学年暦の始めと規定したことで、日本の教育機関は、4月から新しい学年とすることになっていきました（『プロムナード東京大学史』著寺崎昌男 東京大学出版社）。私たちの生活は、1月に新しい年を迎え、新たな気持ちにリセットするのですが、学校（教育機関）は、4月から新たな学年になるということになり、1月には、（なんとなく）4月からの生活を思いながら新しく気持ちを作るということになっていないのでしょうか。2度、気持ちを新たに作る時期があるとも言えますので、これを決してマイナスだと思っているのではなく、この1月から3月までは、今年（2026年の）1年は既に始まっており、特に、生徒の皆さんにとって、とても大切な3ヶ月であると伝えておきたいと思うのです。

学校という組織は、「日本の制度」によって4月に始まるので、学校の3学期は、次の年の準備で教職員は「制度的なこと」に追われます。例えば、入試、教職員の異動、新しい組織を作り直すことなどです。そのため、学校が休みになったり、会議があったりと、なんとなく学校は忙しくなく、新年度への準備をします。

一方、**生徒の皆さんは、制度は関係ありません。**自分自身でその重要性を見出し、自分自身にとって、一体何が必要なのか、自ら責任を持って、**既に始まっている1年のために行動**しなくてはなりません。

教職員と、生徒の皆さんは、この時期は、それぞれ重要な3ヶ月となります。新年で気持ち新たにしたいことを含めて、**自らのスイッチを「再起動」して**、新たな学期を迎えてほしいと思っています。



## 学校 | 日の生活を見直したい

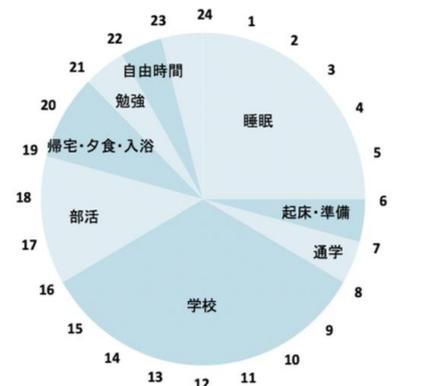
右の「平日スケジュール例」(https://www.manavis.com/mana\_magazine/daily-schedulu/)は、ある塾が示す全国の平均的な高校生の1日で、どのように「勉強時間」を確保するのかを考えるよう促しています。この例を見てわかるように、高校生は、約1日の半分を学校に費やします。睡眠を考えると、学校にいる時間をいかに有効に使うことができるのかは、人生において大切なことだと思います。

皆さん、「午睡」を知っていますか。様々な研究結果があるようですが、多くは、幼児期に午前中の疲労を回復し、成長に必要なホルモン分泌を促す効果があるようです(ウィキペディア)。また、高校生など大人は、人にとって適切な睡眠時間を補うために、短時間の仮眠(10~15分)をとることで、その後の作業効率を上げる効果が確認されているようです(2006~2009年内村直尚久留米大学教授)。近年、企業などでシエスタなどを導入する事例等もあります。

これからの学校は、「探究」に象徴されるように、「学び方」を学ぶことで、「答えのない」課題、「先の見えない」社会に自ら考えて前進する力をつけることが求められています。しかし、**高校生段階は**、

難しい探究の方法を「学ばせる」ということ以上に、日常的に**自分で考えて、自ら選ぶ(選択することができる)トレーニングを、楽しんで行うことが必要**だと思っています。そして教職員がそれをマネジメントしてあげることも・・・

【部活あり高校生】平日のスケジュール例



## ALL IN ONE な学校を目指して

本校では、通信12号で示した「とことん」考えた教育課程の全体像を形にするため、教職員全体で見直しを始めています。先生たちは、本校の生徒の実態を見ながら、これからの社会構造の変化や、これからの本校に求められる教育内容を再構築しようと試みています。おそらく変化は大きくなりますが、すべての生徒が「この学校に行ってよかった」「この先生に出会えてよかった」と思ってもらえる高校にするために必要な改善になると思っています。これからの学校は、小規模化が進むこと、複雑化が進むことで、学校内に「斜めの関係の人々(保護者、教員ではない人)」など、専門的なスキルを持っていることや教員以外の人たちの参画が欠かせなくなります。学校という組織は、子どものアイデンティティの確立を目指す発達の途中であることを考えれば、大切なコミュニティです。その両面から、私は、学校の全体は、先生たちだけでなく、さまざまな人たちと、**ゆるく結びつく組織**に変えながら、**生徒個々の学びに寄り添える存在**にしていきたい。本校に求められる進路指導や、生徒の希望する進路で言えば、**地域社会**(基礎自治体である富士・富士宮や広域自治体としての静岡)に**貢献できる人材**(→高校卒業後、就職したり、専門的な分野を学校で学んだりする)を育てたり、**グローバルに活躍する人材**(→高校卒業後、大学に進学したり、海外大学に留学したりする)を育てたりできる、**「なんとかする」学校**、**生徒が望めば「なんとかできる」学校**を目指さないといけないと思っています。

【通信12号より再掲】

そのためには、**高校で必ず学ぶ必要のあるコア(最低履修修得単位74単位)を保証し、その上で、それぞれの望むキャリアに応じた勉強ができるようにしていきたい。**塾や大学とも連携し、進学に必要な教材や教育環境を提供し、先生たち等をメンターにしながら進学体制を構築するとともに、探究や部活動など「とことん突き詰める「生徒の強み」を育てる体制を並行して強化していきたいと考えています。2026年は、それらより明らかにし、皆さんに積極的に説明していきます。

